

2017（平成29）年度 国際文化学部「教育支援プログラム（A）」募集要項

1. テーマ： 戦争をフィールドワークする

～第2次世界大戦が残したものを通して「平和」について考える

2. プロジェクトの意義

世界各地に残る第2次世界大戦の跡地を訪ねて、グループでフィールドワークを行い、戦後70年余り経過した現在でも、戦争の悲惨さが各地に色濃く影を落としていることを再認識することによって平和の大切さを実感する。今回のプロジェクトでは、コース横断的、ゼミ横断的に、学生のフィールドワークグループを3班組織し、それぞれの班ごとに責任指導教員がついて、事前学習、フィールドワーク、事後学習を行うとともに、「戦争」をテーマにした講演会を開催し「平和」について深く考える機会をもつ。

3. プロジェクトの概要

(1) 事前学習（6月か7月頃、下記のA～Cの責任教員を中心に当該事案に関する事前学習会を実施する）

(2) フィールドワーク

A 中国班（中国 長春、ハルピン） 募集6名

4泊5日 費用約8万円（航空運賃、現地交通費、宿泊代。食費は別途必要。参加者には、最大4万円の補助金を支給する）

2017年9月10日～14日 実施予定

→中国吉林省（長春 偽満皇宮博物院）・黒竜江省（ハルピン 侵華日軍七三一部隊罪証陳列館）を訪れ、満州国・地域における旧日本軍の行為と、それがもたらした今日までの影響について考える。

B 東南アジア班（タイ国 カンチャナブリー） 募集6名

4泊5日 費用概算11万円（航空運賃、現地交通費、宿泊費、現地ガイド、全朝食・昼食代を含む。夕食代は別途必要。参加者には、最大4万円の補助金を支給する）

2017年8月21日～25日 実施予定

→タイ国カンチャナブリー県を訪れ、JEATH 戦争博物館、死の鉄道博物館、ヘルファイアerpasなどから、泰緬鉄道建設に関する悲劇と、戦後補償のありかたについて学ぶ。

C ヨーロッパ班（ポーランド アウシュヴィッツ強制収容所） 募集6名

10泊11日 費用概算17万円（航空運賃、宿泊代。食費等は別途必要。参加者には、最大10万円の補助金を支給する）

2018年3月1日～11日 実施予定（あるいは2月中旬から下旬実施予定。実施日程は参加者決定ののちに決定する。2月に実施する場合、航空運賃が数万円程度高くなる）

→ポーランドのアウシュヴィッツ強制収容所を訪れ、ナチス党政権下のドイツが行ったホロコーストの象徴とされるユダヤ人虐殺の悲劇について学ぶ。

*各班には、責任引率教員がそれぞれ原則として1名同行し、多様な専門領域の視点から現地での教育指導を行う。

(3) 事後学習および講演会（事後の学習発表会を実施するとともに、満田康弘監督「クワイ河に虹をかけた男」の映画上映会・対談などを計画している）

4. 応募資格および応募方法

(1) 応募資格 国際文化学部2年次生（20期生）以上

(2) 応募方法

→参加希望者は、参加希望理由書を提出すること

*参加希望理由書： 800字程度（A4版1枚に、在学番号、氏名、メールアドレスを記し、希望理由を800程度でまとめる）

*提出締切日： 2017年5月12日（金） 午後5時 教務課国際文化学部窓口

*参加希望者に対して、5月下旬頃、面接を実施する。希望者が定員（各班6名）を超えた場合は、参加希望理由書および面接によって参加者を決定する。

5. 日 程

2017年5月12日（金）	募集締切日（午後5時）
5月下旬	参加希望者に対する面接
6月下旬頃～7月上旬頃	事前学習会
7月19日（水）	15:30（A班、B班）
8月～2018年3月	各班、フィールドワーク実施：
11月中旬	講演会・映画上映会
2018年1月17日（水）	15:30（C班）
2月下旬頃	事後学習会

(注意事項)

- ① 研究旅行奨励制度との重複応募は可能。
- ② ただし、研究旅行奨励制度と本プログラムの両方に参加する場合、この2つを日程面で継続して実施することはできないので、必ず、一旦帰国すること。

国際文化学部
取組み責任者 片山 隆裕
(katayama@seinan-gu.ac.jp)